

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<エントリーシート>

※事務局記入欄

No. : C-27

部門

校内研修部門

学校名・氏名

かえつ有明中高等学校 サイエンス科・プロジェクト科

活動名

教科横断の学校改革
～探求に向かうスキルとマインドとは～

課題の設定

※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

●生徒に「考えなさい」「発表しなさい」「話し合いなさい」と言いながら、学校ではその方法を教えていなかった

●教科が違う教員と教育について本音で語り合ったり、学びあうための場所がなかった

→全ての教科の教員がこの科目を担当し、どの科目でも共通して必要な、考えたり、対話したり、表現するためのスキルやマインドを育成することを目指し、オリジナル科目のサイエンス科・プロジェクト科という科目を 14 年前に立ち上げた。プログラムの開発に学校全体で取り組んでいる。

方針・計画

※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

●各科目からサイエンス科・プロジェクト科を担当する教員を選出

●どの科目でも必要な探求のためのスキルやマインドを育成するための授業を組み立てる

●中学サイエンス科では週に 2 時間、高校プロジェクト科では週 4 ～ 8 時間実施

●毎週 1 時間、サイエンス科・プロジェクト科の研修兼ミーティングを実施

活動内容

※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

●最初の数年はブルームのタクソミーを基にした「考える」ためのスキルに特化した授業を展開

●徐々に「考える」以外にも「表現する」「協働する」等のスキルにも焦点をあてていく

●サイエンス科を担当した教員が徐々に変化し、自分の教科にもそのスキルを使用して、探求型の授業に取り組み始める

●一方で、徐々にスキルに特化した授業は生徒の探求へのマインドを阻害していることに気付く

●「考えなくなる」、「表現しなくなる」、「協働しなくなる」マインドの醸成の重要性に気付く

●現在はスキルとマインドの両方を重要視した授業展開へと転換していく

活動の成果

※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

●生徒の主体性に大きく影響があり、生徒がさまざまなプロジェクトに取り組み始めるようになった

例：学校保護宣言プロジェクト（2018 年 4 月 27 日朝日新聞掲載「私の視点」）

チャレンジカップ高校生部門最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、奨励賞 2 点

チャレンジカップ「チャレンジカップ 2018 結果発表」<https://www.challenge-cup.net/gp.html>

●いわゆる知識注入型ではない授業展開がさまざまな教員、さまざまな教科で実施されるようになった

例：中学 1 年、2 年でモデルコアカリキュラムの制定、全ての教科がアクティブラーニング型で実施

●教科横断型の授業展開が広がりつつある

アピールポイント（アイデアや工夫）

※3～5 つ程度の箇条書きしてください

●生徒が主体的に学びに取り組み、学外にも飛び出して、学びを深めている

●教科の違う教員が協働して授業を作ることが一般化している

●パターンランゲージ、国際バカロレア等の新しい学びについて学び、深めている教員集団になっている

サイエンス科イメージ

「考える道筋」の方法論

統合

整理分析

情報収集

「思考のスキル」

プレゼンテーション レポート・小論文
意見文（アカデミックエッセー）
ディベート ポスターセッション
新聞の作成 etc...

事実－意見 原因－結果 要約
比較－対照 分類－グループング
マトリックス 階層構造 etc...

プレスト・SWIH・マングラート
マッピング・ウェビング・メモテイク
情報メディアの特長と利用法 etc...

全ての教員が担当し、どの教科でも共通して必要な学びのためのスキル・マインドを育成を目指す

ブルームのタクソミーについて学び、それに沿ってプログラムやワークブックを教員が協働して週に 1 回の研修兼ミーティングで作り上げる

プロジェクト科イメージ

朝日新聞 2018 年 4 月 27 日掲載「学校保護宣言プロジェクト」

サイエンス科・プロジェクト科を担当した教員がそれぞれの教科の授業や試験を変化させる（左は社会科の試験、上は社会科の新しい評価方法）

2つの評価方法		プロセス(形成)評価						パフォーマンス(成果)評価				総合評価(通知表)		
1-A 社会総合	内容	授業取組相互評価	毎時振り返り	映画観賞シート	カンパジックと社会総合	教科書「問い」探究	プレゼンテーションシート	小計	プレゼン	レポート	定期試験(期末のみ実施)		小計	100段階
		形	態	態	態	態	態		PPT模造紙	ブックレポート	期末1/3	期末100		
	記点	15	5	5	5	5	5	40	10	20	30	100	60	成績
1	● 女	14	5	5	4	5	4	37	7	16	20	65	43	80
2	● 女	13	5	5	5	4	5	37	8	19	16	52	43	80
3	● 男	12	5	5	4	0	4	30	8	12	18	60	38	68
4	● 男	11	4	0	3	0	4	22	8	7	18	59	33	55
5	● 女	12	5	5	4	5	5	36	7	16	11	38	34	70